

## 【PDCA】

### I 森の恵みを活かしたまちづくり



## 第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	学校と家庭の連携による良好な生活習慣の定着	所属	教育課	SDGs	4・11
事業（細目）名	森のようちえん支援事業	事業番号	1979		
総合計画	基本理念	1 森の恵みを活かしたまちづくり			
	視点	②仕事	事業番号	5	連番

### R5年度

Goal(目標)	自然環境を活かした保育の推進と、智頭町らしい特色ある子育て事業を支援する。
Plan(事業概要・計画)	<p>(1) 保育料の軽減・無償化制度の周知⇒通園児のいる家庭の経済的負担の軽減⇒保育環境の選択肢の増加</p> <p>(2) 森のようちえんの運営に対しての補助⇒地域資源を活用した保育を実現⇒地域特有の魅力の創造</p>

### R5年度

Do(実行)	R5実績額	7,622,000円				
活動実績を示す指標		単位	R4(実績)	R5(計画)	R5(実績)	対前年比(%)
①	保育料軽減補助金を活用した園児数	人	1	1	2	200%
②	保育料無償化制度を活用した園児数	人	13	16	19	146%
③	園児数に応じた運営に対する補助金交付	人	14	17	21	150%
実施内容		<p>・森のようちえん運営と連携し、保育料軽減・運営支援補助金の交付。</p> <p>まるたんぼう・・・12人（うち町内5人）</p> <p>すぎぼっくり・・・18人（うち町内14人）</p>				

### R5年度

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適切しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題		<p>・制度の利用により家庭の経済的負担が減った園児が増加。</p> <p>・全国一律の保育料無償化制度など智頭町外でも保育料軽減が受けられるようになり、町内在住の入園希望者及び入園を目的とした移住希望者も智頭町以外の選択肢が増えている。</p>				

### R5年度

評価	B	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価						
評価	B	評価理由： 補助金交付により園の運営と入園家庭への負担軽減が図られている。				

### R5年度

Action(改善)	R5実施内容の改善及び見直しの上、R6の方針・計画
<p>・保育料無償化制度を利用する園児の正確な保育認定状況の情報収集に努める。</p> <p>・園の特性を活かした育成と就学に向けた準備について協議を重ねる。</p>	

## 第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	地域おこし協力隊事業	所属	企画課	SDGs	8、10
事業（細目）名	地域支援促進事業	事業番号	2021		
総合計画	基本理念	森の恵みを活かしたまちづくり			
	視点	仕事	事業番号	2	連番

R5年度（4月記入）

<b>Goal(目標)</b>	智頭町での地域おこし協力隊を希望し、智頭町の発展を願う意識の高い地域おこし協力隊が柔軟に活用できる予算の確保と同時に、町民と行政の中間支援組織となるための事業を行う。さらに協力隊卒業後の起業に対し補助する。
<b>Plan(事業概要・計画)</b>	・各地域おこし協力隊に応じた予算の確保 ・協力隊卒業者への起業支援

R5年度（3月末に記入）

<b>Do(実行)</b>	R5実績見込額		13,408,102円			
活動実績を示す指標		単位	R4	R5(計画)	R5(実績見込)	対前年比(%)
①	協力隊起業支援事業費補助金交付件数	件	1	0	0	0%
②	地域おこし協力隊数	人	5	6	4	80%
③						#DIV/0!
<b>実施内容</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各地域おこし協力隊の活動に対する柔軟な予算編成の実施。</li> <li>・協力隊向けの研修実施等を紹介した。</li> </ul>					

R5年度（3月末に記入）

<b>Check(確認)</b>						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適切しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
<b>成果・課題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協力隊向け研修の周知を行った。</li> <li>・協力隊同士の仲間作り、情報共有の場がない。</li> </ul>					

R5年度（3月末に記入）

評価	B	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価						
評価	C	評価理由： 協力隊をどのような団体等に対して配置するか一定の基準が必要。				

R5年度（3月末に記入）

<b>Action(改善)</b>	
R5実施内容の改善及び見直しの上、R6の方針・計画	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・R6年度も引き続き協力隊の起業支援を行い、定住に繋げる。</li> <li>・引き続き各協力隊の担当者に協力隊とのコミュニケーションをとるよう働きかける。</li> <li>・協力隊同士の交流の場を設ける。</li> </ul>	

## 第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	商店街との協働・連携による活性化	所属	企画課	SDG s	8
事業（細目）名	地方創生推進事業	事業番号	2032		
総合計画	基本理念	森の恵みを活かしたまちづくり			
	視点	仕事	事業番号	3	連番

R5年度（3月末に記入）

<b>Goal(目標)</b>	かわらまち商店街、サービス商店会と協働し商店街の再生とにぎわいづくり及び魅力化を進める。
<b>Plan(事業概要・計画)</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・商店街のにぎわい創出。（新規出店者の増加） ・まちのコインの活用。</li> <li>・ちづみちエリアリノベーション事業との連携。</li> <li>・横の関係各機関との連携強化。</li> </ul>

R5年度（3月末に記入）

<b>Do(実行)</b>		<b>R5実績見込額</b>	500,000円			
	活動実績を示す指標	単位	R4	R5(計画)	R5(実績)	対前年比(%)
①	商店街近辺における新規創業数	個	2	1	1	50%
②	ちのりんショップの開催	件	8	8	8	100%
③						#DIV/0!
<b>実施内容</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・かわらまち商店街でのちのりんショップを数回開催。</li> </ul>					

R5年度（3月末に記入）

<b>Check(確認)</b>						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適切しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
<b>成果・課題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・にぎわい創出をどの様に行うかが課題。</li> <li>・まちのコインを活用した商店街と町民との繋がりを創出するため、当制度を積極的に導入して貰うための周知が必要。</li> </ul>					

R5年度（3月末に記入）

<b>評価</b>	B	<b>方針</b>	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価						
<b>評価</b>	C	<b>評価理由：</b>	商店街と宿場町との連携が難しいなか、まちのコインでのスタンプラリーは効果的であったと感じる。このような事業で関係者の関わりを強化していく必要がある。			

R5年度（3月末に記入）

<b>Action(改善)</b>	
	R5実施内容の改善及び見直しの上、R6の方針・計画
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来年度は、駅前～商店街も含めたエリア全体で賑わいを創出出来る仕掛けを検討していく。</li> <li>・「ちのりんショップ」は毎年好評であり、まちのコインと連携するなど次年度も磨き上げを行ったうえで今後も継続開催していく。</li> </ul>

## 第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	林道整備の推進及び、既設林道の維持管理の実施	所属	地域整備課	SDG s	15
事業（細目）名	林道維持管理事業	事業番号	1158		
総合計画	基本理念	1 森の恵みを活かしたまちづくり			
	視点	②仕事	事業番号	4	連番

R5年度（4月記入）

<b>Goal(目標)</b>	町有林道等の適切な維持管理
<b>Plan(事業概要・計画)</b>	・町管理林道等の適切な維持管理を行い、利用者の安全を図る。

R5年度（3月末に実績を記入）

<b>Do(実行)</b>		<b>R5実績額</b>			21,772,990	
	活動実績を示す指標	単位	R4	R5(計画)	R5(実績)	対前年比(%)
①	修繕費・手数料・工事請負費	千円	16,561	21,824	23,685	143%
②						
③						
<b>実施内容</b>	・林道中ノ津線水路修繕、林道鳴滝線路面不陸整正修繕 外 ・林道牛臥線土砂搬出・撤去・搬出先整地、林道中ノ津線落石撤去 外 ・林道沖ノ山線舗装修繕工事、林道長瀬線路肩修繕工事、林道牛臥線横断溝設置工事 外					

R5年度（3月末に記入）

<b>Check(確認)</b>						
<b>評価項目</b>	<b>評価内容</b>	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適合しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
<b>成果・課題</b>	・損傷箇所の修繕により、利用者の安全が確保された。 ・維持管理業務による水路等への堆積物撤去により路面水が解消され、舗装の損傷等が軽減された。 ・土砂流出により通行不可となっていた路線の撤去作業により、各種機関の重要施設へのアクセスが確保出来た。					

R5年度（3月末に記入）

<b>評価</b>	A	<b>方針</b>	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価						
<b>評価</b>	A	<b>評価理由：</b> 林道の利便性向上と施設被害の未然防止に繋がっている				

R5年度（3月末に記入）

<b>Action(改善)</b>	
	R5実施内容の改善及び見直しの上、R6の方針・計画
	R5年度から実施の維持管理業務により、舗装の破損、法面崩落など林道施設への被害が抑えられていることから、本業務の対象路線を拡大し、本町の基幹産業である林業の更なる振興、観光施設へ繋がる林道の維持管理を継続して実施する。

## 第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	林道整備の推進及び、既設林道の維持管理の実施	所属	地域整備課	SDG s	15	
事業（細目）名	県営林道事業	事業番号	1417			
総合計画	基本理念	I 森の恵みを活かしたまちづくり				
	視点	②仕事	事業番号	4	連番	5

R5年度（5月記入）

Goal(目標)	基幹林道の整備による林業生産活動の活性化、森林の適正管理の推進に寄与する。
Plan(事業概要・計画)	・森林施業の基盤となる林道の整備（基幹林道因美線、箆山線、中ノ津線）を施行する県営事業に対する負担金及び用地購入

R5年度（3月末に実績を記入）

Do(実行)	R5実績額					35,606,059	
活動実績を示す指標			単位	R4	R5(計画)	R5(実績)	対前年比(%)
①	全体進捗率		%	52	54	54	104%
②							
③							
実施内容	基幹林道因美線、箆山線、中ノ津線の開設工事の負担金 基幹林道因美線、箆山線、中ノ津線の用地購入						

R5年度（3月末に記入）

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適合しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題	因美線の用地交渉が難航しており、事業が遅れている。					

R5年度（3月末に記入）

評価	B	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価						
評価	B	評価理由： 県が実施主体であるため、各種調整が困難。進捗（遅れ）。				

R5年度（3月末に記入）

Action(改善)	R5実施内容の改善及び見直しの上、R6の方針・計画					
・既に完了している箇所の維持管理。						

## 第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	次世代を担う林業後継者の確保・育成、自伐林家の育成	所属	山村再生課	SDG s	15
事業（細目）名	林業事業体等支援事業	事業番号	2053		
総合計画	基本理念	I 森の恵みを活かしたまちづくり			
	視点	仕事	事業番号	5	連番

R5年度（4月記入）

Goal(目標)	林業後継者、自伐型林業に取り組む人材の確保・育成を行い、林業就労者の増加を目指す。
Plan(事業概要・計画)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・労働災害防止対策として防護ズボン等の購入を支援することで安全意識の向上を目指す。</li> <li>・雇用開始から5日目までの新参入者の社会保険料の事業主負担を支援し、事業体の新規雇用を促進する。</li> <li>・若手林業家の確保・育成のため、智頭町複業協同組合が雇用した林業マルチワーカーの育成活動を支援する。</li> </ul>

R5年度（3月末に実績を記入）

Do(実行)	R5実績額				4,396,787円	
活動実績を示す指標		単位	R4	R5(計画)	R5(実績)	対前年比(%)
①	防護衣服購入支援者数	人	0	1	0	0%
②	社会保険料支援者数	人	4	3	3	75%
③	林業マルチワーカー雇用者数	人	4	2	2	50%
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・林業事業体における現場作業員の社会保険料（健康保険、厚生年金）の事業主負担の支援</li> <li>・林業マルチワーカーの人材派遣経費、住居・通勤手当、物品購入費、資格取得経費に対する支援</li> </ul>					

R5年度（3月末に記入）

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適合しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題	林業マルチワーカーの賃金等を支援することで、智頭町複業協同組合が適切な人材を採用・確保するとともに、更なる人材育成に向けての基盤づくりが進んでいる。					

R5年度（3月末に記入）

評価	A	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価						
評価	A	評価理由：高い効果が得られており、今後も期待が出来る。				

R5年度（3月末に記入）

Action(改善)	
R5実施内容の改善及び見直しの上、R6の方針・計画	既存の林業マルチワーカーの技術・資格では受け皿となる派遣先に限りがでてきていることから、技術・資格の習熟を進め、新たな派遣先を開拓・確保する必要が生じている。



## 第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	次世代を担う林業後継者の確保・育成、自伐林家の育成	所属	山村再生課	SDG s	15	
事業（細目）名	山と暮らしの人づくり事業	事業番号	2085			
総合計画	基本理念	I 森の恵みを活かしたまちづくり				
	視点	仕事	事業番号	5	連番	6

### R5年度（4月記入）

Goal(目標)	林業後継者、自伐型林業に取り組む人材の確保・育成を行い、林業就労者の増加を目指す。
Plan(事業概要・計画)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自伐型林家等を育成する。</li> <li>・智頭林業を支えてきた架線集材技術を継承する。</li> <li>・林業従事者としての定着を促進する。</li> </ul>

### R5年度（3月末に実績を記入）

Do(実行)	R5実績額				635,465円	
活動実績を示す指標		単位	R4	R5(計画)	R5(実績見込)	対前年比(%)
①	自伐型林業研修会開催支援	人	136	150	94	69%
②	架線集材技術継承支援	人	3	3	1	33%
③	新規就労支援	人	0	1	0	0%
実施内容		<ul style="list-style-type: none"> <li>・自伐型林業研修会開催支援</li> <li>・架線集材技術継承支援</li> <li>・新規就労支援</li> </ul>				

### R5年度（3月末に記入）

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適切しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題						
町内の森林整備の現場が奥地化しており、今後急勾配な箇所での森林整備が必要となってくることが予想されるため、架線集材技術継承が重要であり、事業の普及・技術拡大が課題。						

### R5年度（3月末に記入）

評価	B	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価						
評価	B	評価理由：架線集材による森林整備は毎年実施されている。				

### R5年度（3月末に記入）

Action(改善)	R5実施内容の改善及び見直しの上、R6の方針・計画
「智頭の山と暮らしの未来ビジョン」の実現に向けて現地研修を開催しているが、今後も引き続き施行地の奥地化に適用した架線集材技術の取得にかかる支援を行っていく必要がある。	

## 第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	地元原木市場への原木安定供給の支援	所属	山村再生課	SDG s		
事業（細目）名	山と暮らしの人づくり事業	事業番号	2085			
総合計画	基本理念	I 森の恵みを活かしたまちづくり				
	視点	仕事	事業番号	6	連番	7

R5年度（4月記入）

Goal(目標)	智頭材（間伐材）の搬出を促進し、地元原木市場への原木の安定供給確保を図る。
Plan(事業概要・計画)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・石谷林業原木市場への出荷材への支援を行う。</li> <li>・石谷林業原木市場で材を購入した場合の材に対する支援を行う。</li> </ul>

R5年度（3月末に実績を記入）

Do(実行)	R5実績額					39,291,468円
活動実績を示す指標		単位	R4	R5(計画)	R5(実績)	対前年比(%)
①	出荷材支援	m <sup>3</sup>	23,462	32,425	29,911	127%
②	受渡支援	m <sup>3</sup>	5,142	5,900	4,853	94%
③						
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・石谷林業への出荷支援として、1,200円/m3を補助</li> <li>・製材所への受渡支援として、700円/m3を補助</li> </ul>					

R5年度（3月末に記入）

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適合しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題	<p>地元原木市場への原木供給を継続することができ、あわせて製材業者の支援を実施した。                      予算執行に努めるよう事業者への指導が必要。</p>					

R5年度（3月末に記入）

評価	B	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価		評価理由：木材価格が変動する中、安定した供給、利用に繋がった。				

R5年度（3月末に記入）

Action(改善)	R4実施内容の改善及び見直しの上、R5の方針・計画
<p>「智頭の山と暮らしの未来ビジョン」の実現に向けて現地研修の参加を義務づけているが、より理解に繋がる研修開催が必要。参加者アンケートを元に研修内容を検討する。</p>	

## 第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	木材利用の推進（新需要喚起、バイオマス利用等）	所属	山村再生課	SDG s	7	
事業（細目）名	木の宿場プロジェクトの運営支援	事業番号	1933			
総合計画	基本理念	I 森の恵みを活かしたまちづくり				
	視点	仕事	事業番号	7	連番	8

### R5年度（4月記入）

Goal(目標)	林地残材等、森林由来の木質バイオマス資源を熱利用し、資源の循環利用を推進する。
Plan(事業概要・計画)	<p>・温水プール（薪ボイラー）の運営</p>

### R5年度（11月末に実績見込を記入）

Do(実行)	R5実績見込額	3,865,378円				
活動実績を示す指標		単位	R4	R5(計画)	R5(実績見込)	対前年比(%)
①	出荷材積	t	169	300	210.488	125%
②	保守点検	回	1	2	2	200%
③						#DIV/0!
実施内容	<p>・温水プール（薪ボイラー）の運営、木の宿場プロジェクト事業における出荷材支援</p>					

### R5年度（11月末に記入）

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適切しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題	<p>出荷材積については、リプルの改修が完了し薪使用料が増える見込みがある中、目標（300t）の70%に止まっている。</p> <p>ボイラーの定期点検を行い、使用できる状態を維持している。</p>					

### R5年度（11月末に記入）

評価	C	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価						
評価	C	評価理由： 出荷材の不足、ボイラー運営管理態勢の維持要協議。				

### R5年度（11月末に記入）

Action(改善)	R5実施内容の改善及び見直しの上、R6の方針・計画
<p>・出荷材積を促進するため、新規出荷者の確保（チラシ作成・配布等）に取り組む。</p> <p>・引き続き、薪ボイラーの維持管理を行う。</p> <p>・ボイラーの管理方法について木の宿場実行委員会と協議を重ねる。</p>	

## 第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	木材利用の推進（新需要喚起、バイオマス利用等）	所属	山村再生課	SDG s		
事業（細目）名	林業事業体等支援事業	事業番号	2053			
総合計画	基本理念	I 森の恵みを活かしたまちづくり				
	視点	仕事	事業番号	7	連番	8

R5年度（4月記入）

Goal(目標)	林地残材等、森林由来の木質バイオマス資源を熱利用し、資源の循環利用を推進する。
Plan(事業概要・計画)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・薪ストーブ導入支援</li> <li>・町内の林業・木材産業の伝統を守り、智頭材の利用促進普及活動を推進するため、智頭町木材協会の活動を支援</li> <li>・智頭材の販売促進を図るため、智頭材の持つ有用性等を科学的に明らかにする活動を支援</li> </ul>

R5年度（3月末に実績を記入）

Do(実行)		R5実績額	180,000円			
活動実績を示す指標		単位	R4	R5(計画)	R5(実績)	対前年比(%)
①	薪ストーブ設置台数	台	3	5	1	33%
②	木材利用促進活動実施者	者	1	2	1	100%
③						#DIV/0!
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・薪ストーブ1台の導入を支援。</li> <li>・智頭町木材協会への支援を実施。</li> </ul>					

R5年度（3月末に記入）

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適切しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・薪ストーブを設置することで、木質バイオマスの利用が推進された。</li> <li>・智頭町木材協会の活動を支援することで、智頭材の利用促進普及活動が推進された。</li> </ul>					

R5年度（3月末に記入）

評価	B	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価						
評価	B	評価理由：計画どおり実施できた。				

R5年度（3月末に記入）

Action(改善)	
R5実施内容の改善及び見直しの上、R6の方針・計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・森林資源の循環利用についての意識高揚を図り、潜在的に存在している薪ストーブ設置希望者へ向けて補助制度の周知に務めていく。</li> <li>・智頭杉の需要拡大に向け、智頭町木材協会を支援しながら、町も事業に関わりながら、販売促進を進めていく。</li> </ul>

## 第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	木材利用の推進（新需要喚起、バイオマス利用等）	所属	山村再生課	SDGs	7
事業（細目）名	森林・林業情報発信事業	事業番号	2054		
総合計画	基本理念	I 森の恵みを活かしたまちづくり			
	視点	仕事	事業番号	7	連番

R5年度（4月記入）

<b>Goal(目標)</b>	都心での智頭材需要喚起、智頭農林業の振興
<b>Plan(事業概要・計画)</b>	・東京都港区での木材需要喚起を図る

R5年度（3月末に実績を記入）

<b>Do(実行)</b>	R5実績額	0円
活動実績を示す指標		単位
①	港区での町産木材PR	回
②		R4
③		R5(計画)
		R5(実績)
		対前年比(%)
		0%
		#DIV/0!
		#DIV/0!
<b>実施内容</b>	・今年度は港区主催イベントへの出席はしていない。	

R5年度（3月末に記入）

<b>Check(確認)</b>						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適切しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
<b>成果・課題</b>	・今年度はイベントに参加できていないため、来年度以降は都市部でのPRを積極的に行う必要がある。					

R5年度（3月末に記入）

<b>評価</b>	C	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価						
<b>評価</b>	C	<b>評価理由：</b> PRイベントへの参加が必要。				

R5年度（3月末に記入）

<b>Action(改善)</b>	
R5実施内容の改善及び見直しの上、R6の方針・計画	
・今後は都市部でのPR活動を再開するとともに、民間企業と連携したPR活動も行っていく。	

## 第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	遊休農地の解消に向けた活動への支援	所属	山村再生課	SDG s	
事業（細目）名	中山間地域等直接支払交付金事業	事業番号	1859		
総合計画	基本理念	I 森の恵みを活かしたまちづくり			
	視点	仕事	事業番号	8	連番

### R5年度（4月記入）

<b>Goal(目標)</b>	生産条件の不利性を補正し、農業生産の維持と多面的機能の確保を図る。
<b>Plan(事業概要・計画)</b>	中山間地域であるため農業生産条件が不利な地域において、農業生産活動を継続するための支援。

### R5年度（3月末に実績を記入）

<b>Do(実行)</b>	R5実績額	57,501,238円				
活動実績を示す指標		単位	R4	R5(計画)	R5(実績)	対前年比(%)
①	協定数（集落・個別）	協定	38	38	38	100%
②	対象面積	㎡	3,168,317	3,168,600	3,169,229	100%
③						
<b>実施内容</b>						
<ul style="list-style-type: none"> <li>・第5期対策集落協定の認定（36集落協定・2個別協定）、集落戦略の策定（36集落協定中12集落協定策定済）</li> <li>・現地巡回による実施状況（草刈り等の保全活動）の確認（株式会社サングリーン智頭へ委託）</li> <li>・日本型直接支払交付金事業の説明会（全協定を対象に総合センターで実施。6/26）</li> </ul>						

### R5年度（3月末に記入）

<b>Check(確認)</b>						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適切しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
<b>成果・課題</b>						
<p>昨年度に引き続き農地の保全活動を行っていただいた。</p> <p>担い手や後継者不足により、対象農地が減少傾向にあったが、集落座談会や個別相談等の成果により、対象農地面積が微増している。若い世代の活動参加や、新たな担い手の掘り起こし等が課題であり、他事業との連携も深める。</p>						

### R5年度（3月末に記入）

<b>評価</b>	B	<b>方針</b>	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価						
<b>評価</b>	B	<b>評価理由：</b> 面積拡大や広域化、新規加入の推進、事務局体制の構築が必要。				

### R5年度（3月末に記入）

<b>Action(改善)</b>	R5実施内容の改善及び見直しの上、R6の方針・計画
<p>取組が継続できるよう制度の再周知も含め、各協定に助言、指導を行う。</p> <p>新規認定組織の増加や、既存組織の広域化を目指し、集落座談会や広報、説明会等での周知徹底を図る。</p> <p>令和6年度は、策定が義務づけられている「集落戦略」の策定最終年度となるため、未策定協定への策定促進を加速化させる必要がある。</p>	

## 第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	遊休農地の解消に向けた活動への支援	所属	山村再生課	SDGs	
事業（細目）名	多面的機能支払交付金事業	事業番号	2006		
総合計画	基本理念	I 森の恵みを活かしたまちづくり			
	視点	仕事	事業番号	8	連番

### R5年度（4月記入）

Goal(目標)	集落の農地、農業用施設や農村環境を地域ぐるみでの共同活動等により良好な保全と資的向上を図る。
Plan(事業概要・計画)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業計画の再認定（1組織）、事業計画の新規認定（1組織）</li> <li>・現地巡回による実施状況（草刈り等の保全活動）確認（株式会社サングリーン智頭へ委託）</li> <li>・流域治水のための田んぼダムの取組推進</li> </ul>

### R5年度（3月末に実績を記入）

Do(実行)		R5実績額	14,062,787円			
活動実績を示す指標		単位	R4	R5(計画)	R5(実績)	対前年比(%)
①	対象組織数	組織	26	26	26	100%
②	対象面積	a	23,591	24,131	24,131	102%
③						
実施内容		<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業計画の新規認定（1組織）、再認定（1組織）</li> <li>・現地巡回による実施状況（草刈り等の保全活動）の確認（株式会社サングリーン智頭へ委託）</li> <li>・日本型直接支払交付金事業の説明会（全組織を対象に総合センターで実施。6/26）</li> </ul>				

### R5年度（3月末に記入）

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適切しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題		<p>昨年度に引き続き、農地の保全活動を行っていただいた。また、1組織で新たに田んぼダムの取組をはじめ、流域治水に寄与した。</p> <p>担い手や後継者不足により、対象農地が減少傾向にあったが、集落座談会や広報で制度の再周知を図り、新規認定1組織を追加することができた。一方で、若い世代の活動参加や、新たな担い手の掘り起こし等が課題であり、他事業との連携も深める必要がある。</p>				

### R5年度（3月末に記入）

評価	B	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価		評価理由： さらに人・農地プランや地域計画を意識した支援が必要。				

### R5年度（3月末に記入）

Action(改善)	
R5実施内容の改善及び見直しの上、R6の方針・計画	<p>取組が継続できるよう制度の再周知も含め、各組織に助言・指導を行う。</p> <p>新規認定組織の増加や、既存組織の広域化を目指し、集落座談会や広報等での周知徹底を図る。</p> <p>流域治水の取組を強化するため、引き続き田んぼダムの取組を斡旋し、より効果を高めるため、取組組織数や面積の増加を目指す。</p>

## 第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	遊休農地の解消に向けた活動への支援	所属	山村再生課	SDGs	
事業(細目)名	農地中間管理事業	事業番号	2007		
総合計画	基本理念	I 森の恵みを活かしたまちづくり			
	視点	仕事	事業番号	8	連番

R5年度(4月記入)

<b>Goal(目標)</b>	担い手等への農地利用集積・集約化を図り、遊休農地の解消を目指す。
<b>Plan(事業概要・計画)</b>	農地の有効利用の継続や農業経営の効率化を進める中心的担い手(認定農業者や集落営農組織)への農地利用の集積・集約化を図る。

R5年度(11月末に実績見込を記入)

<b>Do(実行)</b>	<b>R5実績見込額</b>				0円	
活動実績を示す指標		単位	R4	R5(計画)	R5(実績見込)	対前年比(%)
①	事業活用件数	件	9	10	5	111%
②						#DIV/0!
③						#DIV/0!
<b>実施内容</b>		令和6年3月末時点において、農地中間管理機構を通じた利用権設定件数14件、設定面積15,426㎡と集積を図った。				

R5年度(11月末に記入)

<b>Check(確認)</b>						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適切しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象(者・モノ)、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方(手段、内容、負担)は適正か	A	B	C	D	E
<b>成果・課題</b>		令和6年3月末時点において、農地中間管理機構を通じた利用権設定件数14件、設定面積15,426㎡と集積を図った。 今後は、基盤法による利用権設定が廃止となり、機構法に基づく利用権設定に移行していくことになる。機構法による設定は、求める書類が多く事務処理が煩雑になるため、今後は事務の簡略化を検討する必要がある。				

R5年度(11月末に記入)

<b>評価</b>	B	<b>方針</b>	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価						
<b>評価</b>	B	<b>評価理由:</b> 地域計画策定の推進に合わせた体制づくりが必要。				

R5年度(11月末に記入)

<b>Action(改善)</b>	R5実施内容の改善及び見直しの上、R6の方針・計画
集積及び配分等について、担い手等を中心に、従前の基盤法ではなく、機構法に基づく設定を促していく。 基盤法の改正に伴い、今後は基盤法による利用権設定が廃止され機構法に基づく設定に一本化されるため、地域計画の策定も視野に入れた担い手への農地集積をこれまで以上に推進していく必要がある。	



## 第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	自伐林家の郷	所属	山村再生課	SDG s	15
事業（細目）名	山と暮らしの人づくり事業	事業番号	2085		
総合計画	基本理念	I 森の恵みを活かしたまちづくり			
	視点	仕事	事業番号	9	連番

### R5年度（4月記入）

Goal(目標)	山林バンクの登録を行い、登録森林の活用により智頭林業を支える担い手の育成・確保を図る。
Plan(事業概要・計画)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フィールドとなる山林を「山林バンク」として登録</li> <li>・登録山林を技術研修や生業の場として活用</li> </ul>

### R5年度（3月末に実績を記入）

Do(実行)	R5実績額	0円				
活動実績を示す指標		単位	R4	R5(計画)	R5(実績)	対前年比(%)
①	登録森林	ha	0.30	5.00	0.00	0%
②	活用森林	ha	1.44	1.00	0.00	0%
③						
実施内容	前年度に山林バンクの前管理者と管理委託を廃止したため、今年度は森林組合に山林バンクの管理を委託する方向で進めていたが、組合内部の諸事情により成立しなかったことから、実績は0。					

### R5年度（3月末に記入）

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適切しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題	前年度まで、山林情報バンク委託業務を平成28年度から株式会社サングリーン智頭に委託をしてきたが、令和5年度からは取りやめとなったところ。登録森林の活用も継続的な課題であるため、対象森林活用を促進する事業創設はできたが、森林組合への山林バンク委託も目処が立たないため、今後のあり方を検討する必要がある。					

### R5年度（3月末に記入）

評価	C	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価						
評価	C	評価理由：今後の運営方法が課題				

### R5年度（3月末に記入）

Action(改善)	R5実施内容の改善及び見直しの上、R6の方針・計画
「山林情報バンク業務委託」の委託先の変更を行う。	
森林経営管理制度による森林整備も可能となっている手前、山林バンクの委託先の変更が叶わない場合、事業の廃止も含めて再検討していく。	

## 第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	林業の郷	所属	山村再生課	SDGs	15
事業(細目)名	山と暮らしの人づくり事業	事業番号	2085		
総合計画	基本理念	I 森の恵みを活かしたまちづくり			
	視点	仕事	事業番号	10	連番

### R5年度(4月記入)

Goal(目標)	林家として必要な技術等を幅広く学べる研修会開催を支援し、新たな担い手の確保と育成を図る。
Plan(事業概要・計画)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然に満ちた生活実践と林業を生業とすることを志す者に対し、その基礎となる知識・技術等を伝授する教育塾を行う。</li> <li>・自伐型林業に取り組む若手に対して、技術研修を実施し、生業として自伐型林業に取り組む担い手を育成する。</li> <li>・林業従事者としての定着を促進する。</li> </ul>

### R5年度(3月末に実績を記入)

Do(実行)		R5実績額	3,035,465円			
活動実績を示す指標		単位	R4	R5(計画)	R5(実績)	対前年比(%)
①	智頭の山人塾参加者数	人	400	500	540	135%
②	自伐型林業研修会参加者数	人	136	150	94	69%
③	新規就労支援者数	人	1	1	0	0%
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・智頭の山人塾開催の支援を実施</li> <li>・自伐型林業研修会開催の支援を実施</li> </ul>					

### R5年度(3月末に記入)

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適切しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象(者・モノ)、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方(手段、内容、負担)は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題	作業道研修は継続して開催しており、令和5年度には架線集材技術研修も実施することで、智頭町での森林整備に必要な知識、技術の取得に繋がっており、外部からの受講生には智頭林業への興味関心を高めることができた。					

### R5年度(3月末に記入)

評価	B	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価						
評価	B	評価理由： マンネリにならないよう、新規の研修開催が出来ている				

### R5年度(3月末に記入)

Action(改善)	
R5実施内容の改善及び見直しの上、R6の方針・計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・智頭の山人塾、自伐型林業研修会で連携し、事業内容を棲み分けしながら、内容、対象者、開催時期等を調整し、より効率的な研修会を開催していく。</li> </ul>

## 第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	多様な消費者ニーズに応える農産物づくりの推進（自然栽培）	所属	山村再生課	SDGs	15
事業（細目）名	ホンモノの農産物づくり推進事業	事業番号	1953		
総合計画	基本理念	I 森の恵みを活かしたまちづくり			
	視点	仕事	事業番号	11	連番

### R5年度（4月記入）

Goal(目標)	自然栽培への理解を深め、実践及び普及するための研修会等の開催、並びに新たな自然栽培の担い手の確保、耕作放棄地の解消を図り、農業の振興と地域の活性化を図る。
Plan(事業概要・計画)	<p>①自然栽培の担い手育成事業（新規2名）</p> <p>②特定非営利活動法人自然栽培そらみずちの支援</p>

### R5年度（3月末に実績を記入）

Do(実行)		R5実績額	2,440,000円			
活動実績を示す指標		単位	R4	R5(計画)	R5(実績)	対前年比(%)
①	自然栽培新規就農者支援	人	4	6	6	150%
②	自然栽培普及促進支援	団体	1	1	1	100%
③						
実施内容		<p>①自然栽培新規就農者の支援を新たに2名行った。</p> <p>②特定非営利活動法人自然栽培そらみずちを支援し、自然栽培の普及・実践を行った。</p>				

### R5年度（3月末に記入）

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適切しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題		<p>本町の特色ある取り組みであり、多様なニーズに応じていくための体制づくりが必要。</p> <p>担い手の育成等、実施方法や成果をよく検証しながら進めていく必要がある。</p>				

### R5年度（3月末に記入）

評価	B	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価						
評価	B	評価理由：自然栽培をはじめ多様な農業の担い手の確保により遊休農地解消につなげていくべき				

### R5年度（3月末に記入）

Action(改善)	R5実施内容の改善及び見直しの上、R6の方針・計画
<p>今後も特定非営利活動法人自然栽培そらみずちを中心に自然栽培を広めていき、自然栽培野菜の付加価値を高めていくことが必要。</p>	

## 第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	智頭宿特産村の活性化	所属	企画課	SDG s	17
事業（細目）名	観光事業	事業番号	1167		
総合計画	基本理念	森の恵みを活かしたまちづくり			
	視点	仕事	事業番号	15	連番 14

R5年度（3月末）

Goal(目標)	智頭宿の駐車場内にある特産村に賑わいを創出し、智頭町の魅力向上に努める。
Plan(事業概要・計画)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・観光客への案内、おもてなし。</li> <li>・集客をはかるための魅力発信。</li> <li>・各種特産品の販売。</li> </ul>

R5年度（3月末）

Do(実行)		R5実績額			0円	
活動実績を示す指標		単位	R4	R5(計画)	R5(実績)	対前年比(%)
①	特産村貸出店舗数	個	5	5	5	100%
②	特産村出店者との集客作戦協議	円	0	1	0	#DIV/0!
③	石谷家入館者数	件	13,636	15,000	13,269	97%
実施内容		<ul style="list-style-type: none"> <li>・町や観光協会の公式HPならびにSNSでの効果的な情報発信により、観光誘客につながる宣伝を実施。</li> <li>・近隣県や京阪神での商談会、イベント等を通じて智頭宿及び石谷家住宅等のPR。(ツアー造成など)</li> </ul>				

R5年度（3月末）

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適切しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題		<ul style="list-style-type: none"> <li>・特産村に空き店舗を生じさせないことにより、施設の活性化及び観光客へのおもてなしを行った。</li> <li>・観光協会や石谷家住宅と連携し智頭宿一体への集客手法を考える必要がある。</li> </ul>				

R5年度（3月末）

評価	B		方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価							
評価	B	評価理由：特産村としては定着している。観光協会を中心に更なる連携が必要					

R5年度（3月末）

Action(改善)	
R5実施内容の改善及び見直しの上、R6の方針・計画	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・魅力発信事業やまちのコインなども連携をし、特産村内のみならずエリア一体の魅力向上を図る必要がある。</li> </ul>	

## 第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	地産地消の推進	所属	山村再生課	SDG s	
事業（細目）名	ホンモノの農産物づくり推進事業	事業番号	1953		
総合計画	基本理念	I 森の恵みを活かしたまちづくり			
	視点	仕事	事業番号	16	連番

### R5年度（4月記入）

Goal(目標)	町内で生産される農産物の魅力を町内外に情報発信し、消費拡大の仕組みづくりと生産者の営農意欲の増進を図る。
Plan(事業概要・計画)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ルバーブ等地域で生産振興に取り組む農産物を学校給食で活用するよう働きかける</li> <li>・物産会等を通して町内で生産される農産物の魅力を町内外に発信する</li> </ul>

### R5年度（3月末に実績を記入）

Do(実行)		R5実績額	132,265円			
活動実績を示す指標		単位	R4	R5(計画)	R5(実績)	対前年比(%)
①	ルバーブジャムを町内外の学校給食で提供する	回	2	2	1	100%
②	農産物物産会の実施	回	2	2	3	100%
③						
実施内容		<p>①町内の小・中学校の給食で、ルバーブジャムの提供を行った。</p> <p>②農産物物産会に出店し、町内で生産される農産物の販売促進活動を3回行った。</p>				

### R5年度（3月末に記入）

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適切しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題		<p>農産物物産会での販売促進活動については、近年新型コロナウイルスの感染拡大の影響で中止となっていた物産展が再開されたことから、今年度は3回出店できた。（ルバーブジャムは1回の出店）</p> <p>ルバーブ生産者の拡大や栽培面積の規模拡大、町産農産物のPRによる特産化を目指す必要がある。</p>				

### R5年度（3月末に記入）

評価	B	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価						
評価	B	評価理由：ルバーブをはじめとする特産物の生産者や栽培面積拡大を目指す必要がある				

### R5年度（3月末に記入）

Action(改善)	
R5実施内容の改善及び見直しの上、R6の方針・計画	
生産者の増加や栽培面積の拡大を行っていくよう、農産物の栽培状況、特産品化等の状況把握と必要な支援を継続して行う。	

## 第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	本物の農産物供給体制	所属	山村再生課	SDGs	2
事業(細目)名	ホンモノの農産物づくり推進事業	事業番号	1953		
総合計画	基本理念	I 森の恵みを活かしたまちづくり			
	視点	仕事	事業番号	17	連番

R5年度(4月記入)

Goal(目標)	家庭菜園野菜の集出荷体制を整え販路の拡大を図る。
Plan(事業概要・計画)	①家庭菜園野菜の特産品化に向けた集出荷支援と付加価値販売に係る活動を支援(智頭野菜新鮮組) ②自然栽培の担い手育成事業(新規2名) ③特定非営利活動法人自然栽培そらみずちの支援

R5年度(3月末に実績を記入)

Do(実行)			R5実績額			2,972,694円
活動実績を示す指標		単位	R4	R5(計画)	R5(実績)	対前年比(%)
①	出荷売上	円	641,000	600,000	532,694	94%
②	自然栽培普及促進事業補助金(新規就農者に対する支援)	人	4	6	6	150%
③	自然栽培普及促進事業補助金	団体	1	1	1	100%
実施内容		①野菜の集荷、梱包、発送作業、各種取引先、ふるさと納税等へ野菜を発送する活動を支援を行った。 ②自然栽培新規就農者の支援を行った。 ③自然栽培の普及・実践を行うための特定非営利活動法人自然栽培そらみずちの支援を行った。				

R5年度(3月末に記入)

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適切しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象(者・モノ)、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方(手段、内容、負担)は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題		自然栽培、家庭菜園野菜の特産品化は本町の特色ある取り組みであり、多様なニーズに応えていくための体制づくりが必要。担い手の育成等、実施方法や成果をよく検証しながら進めていく必要がある。				

R5年度(3月末に記入)

評価	B	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価						
評価	B	評価理由: 自然栽培をはじめ多様な農業の担い手を確保遊休農地解消等につなげていくべき。				

R5年度(3月末に記入)

Action(改善)	
R5実施内容の改善及び見直しの上、R6の方針・計画	
自然栽培をはじめ、多様な担い手の確保を進めていき、本町の強みを生かした農産物づくりを推進する。	

## 第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	低コスト林業の推進	所属	山村再生課	SDGs	15
事業（細目）名	森づくり作業道整備事業	事業番号	1654		
総合計画	基本理念	I 森の恵みを活かしたまちづくり			
	視点	仕事	事業番号	18	連番

R5年度（4月記入）

<b>Goal(目標)</b>	健全な森づくりへの積極的な取組を促進し、労働負荷や素材の搬出コスト低減を図る
<b>Plan(事業概要・計画)</b>	作業道の開設を支援

R5年度（3月末に実績を記入）

<b>Do(実行)</b>	R5実績額	22,333,786円				
活動実績を示す指標		単位	R4	R5(計画)	R5(実績)	対前年比(%)
①	作業道開設延長	m	8,789	12,714	10,771	123%
②						
③						
<b>実施内容</b>	作業道の開設を支援					

R5年度（3月末に記入）

<b>Check(確認)</b>						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適切しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
<b>成果・課題</b>	例年、計画どおりの実績をあげている。 壊れにくい作業道の作設を推進する必要がある、路網線形の指導等が不可欠。					

R5年度（3月末に記入）

<b>評価</b>	B	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価	B	評価理由：前年度以上の実績をあげている。				

R5年度（3月末に記入）

<b>Action(改善)</b>	R5実施内容の改善及び見直しの上、R6の方針・計画
路網線形の指導等が不可欠であるため、研修等開催の際には、作業道にかかる研修開催を優先事項として検討。	

## 第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	低コスト林業の推進	所属	山村再生課	SDGs	15
事業(細目)名	美しい森林づくり基盤整備事業	事業番号	1906		
総合計画	基本理念	I 森の恵みを活かしたまちづくり			
	視点	仕事	事業番号	18	連番

R5年度(4月記入)

<b>Goal(目標)</b>	森林の持つ公益的機能の高度発揮及び、維持増進を目的とした森林整備を推進
<b>Plan(事業概要・計画)</b>	森林の持つ公益的機能の高度発揮及び、維持増進を目的とした森林整備(間伐・作業道開設)に必要な経費の支援を行う。

R5年度(3月末に実績を記入)

<b>Do(実行)</b>	R5実績額	17,225,269円				
活動実績を示す指標		単位	R4	R5(計画)	R5(実績)	対前年比(%)
①	間伐面積	ha	55.25	193.7	26.39	48%
②	作業道延長	m	4,040	6,086	2,581	64%
③						
<b>実施内容</b>	森林の持つ公益的機能の高度発揮及び、維持増進を目的とした森林整備(間伐・作業道開設)に必要な経費の支援を行う。					

R5年度(3月末に記入)

<b>Check(確認)</b>						
評価項目	評価内容	100%	50%	25%	0%	
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適切しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象(者・モノ)、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方(手段、内容、負担)は適正か	A	B	C	D	E
<b>成果・課題</b>	森林経営計画樹立が困難な小規模事業者でも事業実施が可能な点が、非常に有効な事業である。そのため、小規模面積での間伐、作業道開設の支援が可能となっている。					

R5年度(3月末に記入)

<b>評価</b>	B	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価	B	評価理由：集約化が困難な森林に対応ができる有効な事業				

R5年度(3月末に記入)

<b>Action(改善)</b>	R4実施内容の改善及び見直しの上、R5の方針・計画
国交付金事業であり、県高上げもある補助事業となっており、町負担が比較的少ない事業。そのため、なるべく多くの林業事業者が本事業を活用するよう誘導していく必要がある。	



## 第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	低コスト林業の推進	所属	山村再生課	SDGs	15
事業（細目）名	林業事業者等支援事業	事業番号	2053		
総合計画	基本理念	I 森の恵みを活かしたまちづくり			
	視点	仕事	事業番号	18	連番

R5年度（4月記入）

Goal(目標)	健全な森づくりへの積極的な取組を促進し、労働負荷や素材の搬出コスト低減を図る。
Plan(事業概要・計画)	林業機械の整備、リースを支援 （「智頭林業」機械化促進事業）

R5年度（3月末に実績を記入）

Do(実行)		R5実績額	1,382,500円			
活動実績を示す指標		単位	R4	R5(計画)	R5(実績)	対前年比(%)
①	林業機械整備支援	台	2	1	2	100%
②	林業機械リース支援	台	1	1	1	100%
③						
実施内容	鳥取県林業再生事業における県単機械整備、リム支援を受けている事業者に対してその経費の支援を実施。					

R5年度（3月末に記入）

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適切しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題	例年計画どおりに実施しているが、県では皆伐を実施する事業者の補助率を上げ、それ以外は下げている仕組みとなっているため、そういった県の施策状況も勘案しながら事業内容の変更も検討していく必要がある。					

R5年度（3月末に記入）

評価	B	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価						
評価	B	評価理由：計画どおりの執行となっている。				

R5年度（3月末に記入）

Action(改善)	R5実施内容の改善及び見直しの上、R6の方針・計画
低コスト林業の推進には機械化が不可欠のため、林業機械の導入によって現場作業を軽減化し、作業員の安全化を図るとともに労働環境を改善し、今後の担い手確保に繋げていく。	

## 第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	木の宿場プロジェクトの運営支援	所属	山村再生課	SDG s	7
事業（細目）名	木の宿場プロジェクトの運営支援	事業番号	1933		
総合計画	基本理念	I 森の恵みを活かしたまちづくり			
	視点	仕事	事業番号	19	連番

R5年度（4月記入）

Goal(目標)	林地残材等、森林由来の木質バイオマス資源を熱利用し、資源の循環利用を推進する。
Plan(事業概要・計画)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・木の宿場への出荷支援</li> <li>・間伐支援</li> <li>・木の宿場林業塾開催支援</li> </ul>

R5年度（3月末に記入）

Do(実行)	R5実績額	3,865,378円				
活動実績を示す指標		単位	R4	R5(計画)	R5(実績)	対前年比(%)
①	出荷材積	t	169	300	210.488	125%
②	間伐面積	a	86	500	30	35%
③						#DIV/0!
実施内容		<ul style="list-style-type: none"> <li>・木の宿場への出荷支援</li> <li>・間伐支援</li> <li>・木の宿場林業塾開催支援</li> </ul>				

R5年度（3月末に記入）

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適切しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題		<p>出荷材積については、リプルの改修が完了し薪使用料が増える見込みがある中、目標（300t）の70%に止まっている。</p>				

R5年度（3月末に記入）

評価	C	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価						
評価	C	評価理由：木の宿場関係者の固定化				

R5年度（3月末に記入）

Action(改善)	R5実施内容の改善及び見直しの上、R6の方針・計画
<p>出荷者の固定化が一番の課題であることから、令和6年度も引き続き木の宿場林業塾の開催や新規メンバー募集のチラシの作成・配布等が必要。町民の「杉小判」認知度が向上したことを活かし、引き続き出荷に繋がるよう取り組みを進める。</p>	

## 第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	地域の特性を活かした農業生産（農産物加工）の支援	所属	山村再生課	SDG s	
事業（細目）名	地域農業振興プラン支援事業	事業番号	1800		
総合計画	基本理念	I 森の恵みを活かしたまちづくり			
	視点	仕事	事業番号	20	連番

### R5年度（4月記入）

Goal(目標)	農家に対する農業用機械及び施設導入の支援、遊休農地の再生利用支援
Plan(事業概要・計画)	<p>小規模農家の継続及び遊休農地の再生利用を支援する。また、自らの創意工夫による取組を行っている農業者に対し、機械等の基盤整備や生産活動に要する経費の支援を行うことで、元気な農業者を育成するとともに、地域農業の活性化を図る。</p>

### R5年度（3月末に実績を記入）

Do(実行)		R5実績額	10,496,830円			
活動実績を示す指標		単位	R4	R5(計画)	R5(実績)	対前年比(%)
①	次世代につなげる農業経営基盤整備事業（機械、施設導入の支援）	件	10	6	7	60%
②	次世代につなげる農業経営基盤整備事業（遊休農地の再生利用支援）	件	1	0	0	0%
③	がんばる農家プラン支援事業	件	1	1	1	100%
実施内容	機械、施設導入の支援 がんばる農家プラン事業を通じた農業者への支援					

### R5年度（3月末に記入）

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適切しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題	引き続き農業の担い手確保を重要課題として、就農や農業継続のための基盤整備等を進めていく。					

### R5年度（3月末に記入）

評価	B	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価						
評価	B	評価理由：小規模農家を含め多様な担い手の確保が課題。				

### R5年度（3月末に記入）

Action(改善)	R5実施内容の改善及び見直しの上、R6の方針・計画
昨年度に引き続き、がんばる農家プラン事業にて認定農業者への支援を行う（3/3年目）。また、中山間地域で農業を支えている人・農地プラン/地域計画の中心経営体に位置付けられる農家や、認定農業者を目指す農家に対し機械導入を支援し、水田農業の維持・発展を図る。	

## 第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	地域の特性を活かした農業生産（農産物加工）の支援	所属	山村再生課	SDG s		
事業（細目）名	ホンモノの農産物づくり推進事業	事業番号	1953			
総合計画	基本理念	I 森の恵みを活かしたまちづくり				
	視点	仕事	事業番号	20	連番	19

### R5年度（4月記入）

Goal(目標)	農業への関わり方や理念、規模に則した支援を行い、地域農業の魅力を高め、付加価値の高い農産物づくりを進める
Plan(事業概要・計画)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭菜園野菜の特産品化に向けた集出荷支援と付加価値販売（智頭野菜新鮮組）に係る活動を支援する。</li> </ul>

### R5年度（3月末に実績を記入）

Do(実行)		R5実績額	532,694円			
活動実績を示す指標		単位	R4	R5(計画)	R5(実績)	対前年比(%)
①	智頭野菜新鮮組出荷売上	円	641,000	600,000	532,694	94%
②						
③						
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・野菜の集荷、梱包、発送作業、各種取引先、ふるさと納税等へ野菜を発送する活動を支援した。</li> <li>・野菜づくり講習会を開催し、品質のよい野菜の生産を行った。</li> </ul>					

### R5年度（3月末に記入）

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適切しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題	担い手の育成等、実施方法や成果をよく検証しながら進めていく必要がある。					

### R5年度（3月末に記入）

評価	B	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価						
評価	B	評価理由：多様な農業の担い手を確保遊休農地解消等につなげていくべき。				

### R5年度（3月末に記入）

Action(改善)	
R5実施内容の改善及び見直しの上、R6の方針・計画	
今後も多様な担い手の確保を進めていき、本町の強みを生かした農産物づくりを推進していくことが必要。	

## 第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	有害鳥獣対策（侵入を防ぐ対策、個体数を減らす対策）への支援	所属	山村再生課	SDG s	
事業（細目）名	鳥獣等被害防止事業	事業番号	1776		
総合計画	基本理念	I 森の恵みを活かしたまちづくり			
	視点	仕事	事業番号	21	連番

### R5年度（4月記入）

Goal(目標)	町産ジビエ等の本町ならではの資源を有効活用し、これらを地域内で循環利用する社会を構築する。
Plan(事業概要・計画)	
<small>①侵入を防ぐ対策</small> <small>・ニホンジカ、イノシシの侵入防止柵の導入支援、鳥獣に強い集落づくりの支援（捕獲講習会の開催、買購入支援等）</small> <small>②個体数を減らす対策</small> <small>・ニホンジカ、イノシシ、カラス、カワウ等の有害鳥獣捕獲、銃所持者の射撃技術向上、アナグマ、ハクビシン等の中型獣による農業被害の防止</small> <small>③町産ジビエの振興</small>	

### R5年度（3月末に記入）

Do(実行)	R5実績額	14,597,000円				
活動実績を示す指標		単位	R4	R5(計画)	R5(実績)	対前年比(%)
①	侵入防止柵整備延長	m	1,712	1,583	1,583	92%
②	ニホンジカ・イノシシ捕獲頭数	頭	521	650	726	139%
③						
実施内容 ・侵入を防ぐ対策 侵入防止柵の整備支援 ・個体数を減らす対策 イノシシ、ニホンジカ、カラス捕獲の委託、猟友会射撃練習の開催 ・町産ジビエの振興 智頭町をフィールドとした、狩猟者の育成研修を行った。						

### R5年度（3月末に記入）

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適切しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題 近年、有害鳥獣の生息数は減少または横ばい傾向にあり、侵入を防ぐ対策と個体数を減らす対策の効果が出ている。引き続き、有害鳥獣対策を推進し、また推進にあたり智頭町猟友会の協力が必要不可欠であるため、この会員の維持、増加を図る取組も併せて注力する必要がある。						

### R5年度（3月末に記入）

評価	B	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価						
評価	B	評価理由：引き続き、被害防止計画に基づき、鳥獣被害防止への注力が必要。				

### R5年度（3月末に記入）

Action(改善)	
R5実施内容の改善及び見直しの上、R6の方針・計画	
R5に智頭町猟友会に4名新規加入があり、会員数増加の推進の成果が現れ始めている。引き続き、会員数を増やす取組を進めると共に、町産ジビエのPRに注力し、併せて知識や技術のさらなる獲得のための狩猟、解体講習会等の取組が必要。 町産ジビエの供給の安定化のために、百人委員会獣害対策部会、ちづDeer's、智頭町猟友会の連携を強化する必要がある。	

## 第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	地域資源を循環、有効活用する	所属	山村再生課	SDG s		
事業（細目）名	林業事業体等支援事業	事業番号	2053			
総合計画	基本理念	I 森の恵みを活かしたまちづくり				
	視点	仕事	事業番号	24	連番	23

R5年度（4月記入）

Goal(目標)	木材など、本町ならではの資源を有効活用し、これらを地域内で循環利用する社会を構築する。
Plan(事業概要・計画)	・薪ストーブ導入支援

R5年度（3月末に実績を記入）

Do(実行)		R5実績額	180,000円			
活動実績を示す指標		単位	R4	R5(計画)	R5(実績)	対前年比(%)
①	薪ストーブ設置台数	台	3	5	1	33%
②						#DIV/0!
③						#DIV/0!
実施内容	・薪ストーブ1台の導入支援を実施。					

R5年度（3月末に記入）

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適切しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題	・薪ストーブの支援を1台実施することで、木質バイオマス利用を推進。					

R5年度（3月末に記入）

評価	B		方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価							
評価	B	評価理由：計画未満の実施だったが、バイオマス利用は推進できた。					

R5年度（3月末に記入）

Action(改善)	
R5実施内容の改善及び見直しの上、R6の方針・計画	
・森林資源の循環利用についての意識高揚を図り、潜在的に存在している薪ストーブ設置希望者へ向けて補助制度の周知に務めていく。	

## 第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	地域資源を循環、有効活用する	所属	山村再生課	SDGs		
事業（細目）名	山と暮らしの人づくり事業	事業番号	2085			
総合計画	基本理念	I 森の恵みを活かしたまちづくり				
	視点	仕事	事業番号	24	連番	23

R5年度（4月記入）

Goal(目標)	智頭材（間伐材）の搬出を促進し、町内の製材品を利用することで、材の循環利用を推進する。
Plan(事業概要・計画)	建築業者が智頭町内で製材加工された杉・桧の製材品の購入する際に支援を行う。

R5年度（3月末に実績を記入）

Do(実行)		R5実績額	1,631,670円			
活動実績を示す指標		単位	R4	R5(計画)	R5(実績)	対前年比(%)
①	製品利用支援	m <sup>3</sup>	131	201	163	124%
②						
③						
実施内容	建築業者への製品利用支援として10,000円/m <sup>3</sup> を補助					

R5年度（3月末に記入）

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適切しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題	これまで素材生産者、製材業者のみの支援だったが、製品利用についても支援を行うことで、智頭材の出荷→製材→製品と繋がる仕組みを構築できた。					

R5年度（3月末に記入）

評価	B	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価						
評価	B	評価理由：昨年の1.25倍利用の見込であること				

R5年度（3月末に記入）

Action(改善)	
R5実施内容の改善及び見直しの上、R6の方針・計画	
令和6年度は事業実施主体が4者であったが、今後事業実施主体が増えるよう更なる制度周知が必要。	

## 第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	智頭町まるごと民泊の積極的推進	所属	山村再生課	SDGs	8
事業(細目)名	智頭町まるごと民泊事業	事業番号	1972		
総合計画	基本理念	I 森の恵みを活かしたまちづくり			
	視点	仕事	事業番号	25	連番

### R5年度(4月記入)

Goal(目標)	民泊を通じ多くの方に本町を訪れてもらい、地域の活性化につなげ第2のふるさととなるよう推進する。
Plan(事業概要・計画)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民泊を通じ多くの方に本町を訪れてもらい、地域の活性化に繋がるとともに、都市住民の第2のふるさととなるよう事業を推進。</li> <li>・ワンランク上のおもてなし提供、各家庭のおもてなし力を智頭町のおもてなしレベルに引き上げる。</li> </ul>

### R5年度(3月末に記入)

Do(実行)	R5実績額	4,425,702円				
活動実績を示す指標		単位	R4	R5(計画)	R5(実績)	対前年比(%)
①	新規民泊受入家庭の増	軒	1	5	1	100%
②	民泊レベルアップのための研修会	回	1	5	2	200%
③						#DIV/0!
実施内容		<ul style="list-style-type: none"> <li>・智頭町民泊のPRとイベント運営による協議会活動活性化のため、「智頭町民泊フォトロゲイニング」を実施した。</li> </ul>				

### R5年度(3月末に記入)

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適切しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象(者・モノ)、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方(手段、内容、負担)は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題		<ul style="list-style-type: none"> <li>・簡易宿所営業登録1軒。</li> <li>・PRイベントが低調であった。</li> <li>・コロナ流行時期に比べ、民泊利用者数が回復傾向にあるが、V字回復に至っていない。</li> </ul>				

### R5年度(3月末に記入)

評価	C	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価						
評価	C	評価理由：民泊のPR方法に工夫が必要。				

### R5年度(3月末に記入)

Action(改善)	R5実施内容の改善及び見直しの上、R6の方針・計画
<p>研修を行いながら、おもてなし(日帰りプラン・各種体験メニュー等)を引き続き行う。また、民泊のPR方法を再度検討し、利用者の増加を目指す必要がある。(R6は教育旅行に注力する)</p>	



## 第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	森林セラピー商品の開発	所属	山村再生課	SDG s	8,12
事業（細目）名	森林セラピー事業	事業番号	1896		
総合計画	基本理念	I 森の恵みを活かしたまちづくり			
	視点	仕事	事業番号	26	連番

R5年度（4月記入）

Goal(目標)	地域の活力創造と疎開の町として癒しの里づくりを進めるため、新たな商品・プログラムの構築
Plan(事業概要・計画)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業研修プログラムの販売及び企業のニーズに合わせたプログラムの販売。</li> <li>・他の森林サービス産業とのコラボレーションプログラムの販売。</li> <li>・田舎暮らし体験の活用。      ・智頭町森林セラピーアプリの活用。</li> </ul>

R5年度（11月末に実績見込を記入）

Do(実行)	R5実績見込額	1,080,445円				
活動実績を示す指標		単位	R4	R5(計画)	R5(実績見込)	対前年比(%)
①	森林セラピーセミナー等の開催	回	1	2	2	200%
②	うつ病を患者を対象としたデータ収集	回	1	1	0	0%
③	企業研修の実施	回	1	5	1	100%
実施内容		<ul style="list-style-type: none"> <li>・連携協定締結企業と共同でEXPOに出店。ストレスチェック後のエスカレーション先としてPRを実施。</li> <li>・うつ病患者のデータ収集は、宇治おうばく病院の新型コロナ院内感染拡大により中止。</li> <li>・智頭町森林セラピーアプリ、SNS等を活用して情報発信を行った。</li> </ul>				

R5年度（11月末に記入）

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適應しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題		<p>新型コロナ5類移行後は、WeLOVE山陰キャンペーン等の助成も無くなり令和4年度まで続いたコロナ特需が明け、これまで訪問を制限されてきたいわゆる「定番観光地」の需要が高まっており、県内観光全体が下火傾向にある。今後は新たな観光地に集中したオーバーツーリズムやインバウンド需要の地方分散に備える必要がある。</p>				

R5年度（11月末に記入）

評価	B	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価						
評価	B	評価理由： 地方の観光地への観光需要がV字回復に至っていない。				

R5年度（11月末に記入）

Action(改善)	R5実施内容の改善及び見直しの上、R5の方針・計画
<p>ねんりんピックや関西万博を見据えたPR営業を実施し、定番観光地に集中したオーバーツーリズムやインバウンド需要の地方分散に備える。</p>	

## 第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	地域経済循環創造事業	所属	企画課	SDG s	8
事業(細目)名	まちづくり支援事業	事業番号	2030		
総合計画	基本理念	森の恵みを活かしたまちづくり			
	視点	仕事	事業番号	30	連番 29

R5年度(3月末に記入)

<b>Goal(目標)</b>	地域資源を生かし、持続可能な事業の立ち上げや地域課題の解決を図るため、民間事業者等の初期投資費用を地域金融機関と町が支援することにより、地域の活性化が図られる。
<b>Plan(事業概要・計画)</b>	・地域経済循環創造事業補助金の募集

R5年度(3月末に記入)

<b>Do(実行)</b>	<b>R5実績見込額</b>	0円
活動実績を示す指標	単位	R4
① 事業実施	件	0
②		0
③		0
対前年比(%)		#DIV/0!
<b>実施内容</b>	・ 随時、新規取り組みたい事業がある場合の相談時に紹介。 ・ 実施団体なし	

R5年度(3月末に記入)

<b>Check(確認)</b>						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適切しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象(者・モノ)、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方(手段、内容、負担)は適正か	A	B	C	D	E
<b>成果・課題</b>	・ 新規事業に取り組みたい場合、相談時にこの事業を紹介している。 ・ 既実施団体のアフターフォロー					

R5年度(3月末に記入)

評価	C	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価						
評価	C	評価理由: 実施者が出現していないので、もっとPRが必要。				

R5年度(3月末に記入)

<b>Action(改善)</b>	
R5実施内容の改善及び見直しの上、R6の方針・計画	・ 新規創業や開業時の初期投資に使っていただけるよう、相談体制を維持する。 ・ 地域金融機関との連携を図る。

### 第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	地籍調査事業		所属	地籍調査課	SDG s	15
事業(細目)名	地籍調査事業		事業番号	1392		
総合計画	基本理念	I 森の恵みを活かしたまちづくり				
	視点	環境整備	事業番号	8	連番	30

R5年度(4月記入)

Goal(目標)	計画どおり事業実施すること。
Plan(事業概要・計画)	<p>法務局にある土地登記簿、公図に基づき智頭町内の土地の形状、境界、所有者の土地の関係を一筆毎に調査し地籍簿、地籍図を作成する事業である。</p> <p>智頭町の総面積224.70km<sup>2</sup>のうち地籍調査を実施する面積は、国有林、ほ場整備区域を除外した191.53km<sup>2</sup>であり、平成5年度に富沢地区から着手し、現在那岐地区・山形地区・山郷地区・土師地区を調査している。</p> <p>令和5年度の実施地区は、継続地区(11計画区)、新規地区(4計画区)の15計画区(当該年度数値情報化4計画区を含む)22.67km<sup>2</sup>であり、うち大字慶所の一部(平地・山)2実施区面積0.66km<sup>2</sup>、大字大呂の一部(山)1実施区面積1.08km<sup>2</sup>、大字中原の一部(山)1実施区面積7.05 km<sup>2</sup>を一筆調査する。</p> <p>新たに調査地区としては、大字三吉の一部(平地・山)2調査区面積0.95km<sup>2</sup>、大呂の一部(山)調査区面積2.02km<sup>2</sup>、中原の一部(山)調査区面積1.45km<sup>2</sup>を着手する。</p> <p>また、直営では、大字慶所の一部(平地・山)2実施区面積0.66km<sup>2</sup>の一筆調査と新規に大字三吉の一部(平地・山)2調査区面積0.95km<sup>2</sup>を着手する。</p> <p>令和5年度の進捗率は、51.42%(圃場整備認証・19条5項3.77km<sup>2</sup>を含むと53.39%)となる計画である。</p>

R5年度(年度末評価を記入)

Do(実行)		R5実績額			114,476,000円	
活動実績を示す指標		単位	R4	R5(計画)	R5(実績)	対前年比(%)
①	地籍調査事業費	千円	126,913	134,136	114,476	106%
②						
③						
実施内容		事業計画により実施をすることが必要であり、また、土地所有者も高齢化進んでおり早期に事業を完了できるよう、作業効率向上を図るため平成29年度から調査の一部を直営で実施している。				

R5年度(年度末評価を記入)

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適切しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象(者・モノ)、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方(手段、内容、負担)は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題		令和5年度事業は、遅延等がなく計画どおり実施している。				
		8				

R5年度(年度末評価を記入)

評価	A	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価						
評価	A	評価理由：計画どおり事業実施している。				

R5年度(年度末評価を記入)

Action(改善)	
R5実施内容の改善及び見直しの上、R6の方針・計画	
早期に事業完了できるように、地域の土地の形状等考慮しながら調査区を決める必要があるため、事業計画作成するにあたり十分な検討を行うことが重要である。	

## 第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	町内各地へのセラピーロードの整備	所属	山村再生課	SDG s		
事業(細目)名	森林セラピー事業	事業番号	1896			
総合計画	基本理念	I 森の恵みを活かしたまちづくり				
	視点	環境整備	事業番号	9	連番	31

R5年度(4月記入)

Goal(目標)	町内各地のセラピーロードの点検及び維持管理。
Plan(事業概要・計画)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各セラピーロード内の倒木撤去等</li> <li>・各セラピーロード関連施設修繕</li> </ul>

R5年度(3月末に記入)

Do(実行)	R5実績額	1,225,680円				
活動実績を示す指標		単位	R4	R5(計画)	R5(実績)	対前年比(%)
①	各セラピーロード内の倒木撤去等	回	5	5	8	160%
②	各セラピーロード関連施設修繕	回	6	6	6	100%
③						
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各セラピーロード内の倒木撤去等を行った。</li> <li>・セラピーロード内看板修繕及びコースの修繕を行った。</li> </ul>					

R5年度(3月末に記入)

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適應しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象(者・モノ)、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方(手段、内容、負担)は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの方に安全に利用してもらうためのセラピーロード維持管理を行った。</li> <li>・横瀬渓谷コース、こもれびの森コースについて、台風7号の被害により大きな修繕が発生した。</li> </ul>					

R5年度(3月末に記入)

評価	A	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価						
評価	A	評価理由：多くの方に安全に利用してもらえるよう継続的な維持管理が必要。				

R5年度(3月末に記入)

Action(改善)	R4実施内容の改善及び見直しの上、R5の方針・計画
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要に応じて引き続き森林セラピーロード内の倒木撤去と関連施設の修繕を行う。</li> </ul>

## 第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	良好な景観形成に向けた周知	所属	企画課	SDGs	11
事業(細目)名	まちづくり事務費	事業番号	1011		
総合計画	基本理念	I 森の恵みを活かしたまちづくり			
	視点	③ 環境整備	事業番号	18	連番

R5年度(3月記入)

Goal(目標)	良好な景観を守るために景観計画を周知し、行動する時には景観に配慮する意識を醸成する
Plan(事業概要・計画)	・智頭町景観計画の周知

R5年度(3月末)

Do(実行)	R5実績額	0円
活動実績を示す指標		対前年比(%)
①	庁舎内景観計画勉強会	#DIV/0!
②	景観計画策定審議会	#DIV/0!
③		
実施内容		
・庁舎内景観計画勉強会は開催できていない ・景観計画審議会に諮問する案件なし		

R5年度(3月末)

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適切しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象(者・モノ)、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方(手段、内容、負担)は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題						
・教育課と連携して、文化的景観をふまえた景観計画のローリングが必要 ・庁舎内勉強会を開催し、各部局横断的な取り組みを行いたい ・対町民向けのアクションが必要						

R5年度(3月末)

評価	C	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価						
評価	B	評価理由: 景観はまちづくりの重要な要素であるため、計画的な更新が必要。				

R5年度(3月末)

Action(改善)	R5実施内容の改善及び見直しの上、R6の方針・計画
・教育課と連携した庁舎内勉強会の開催 ・景観計画の見直し ・対町民向けのアクション	

## 第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	じん芥処理事業	所属	税務住民課	SDG s		
事業（細目）名	じん芥処理事業	事業番号	1120			
総合計画	基本理念	I 森の恵みを活かしたまちづくり				
	視点	環境整備	事業番号	20	連番	34

R5年度（4月記入）

Goal(目標)	不法投棄の解消
Plan(事業概要・計画)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不法投棄パトロールの実施</li> </ul>

R5年度（年度末実績を記入）

Do(実行)	R5実績	0円				
活動実績を示す指標		単位	R4	R5(計画)	R5(実績)	対前年比(%)
①	不法投棄パトロール	回	随時	随時	2	#VALUE!
②						#DIV/0!
③						#DIV/0!
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不法投棄パトロールの実施</li> </ul>					

R5年度（年度末実績時のチェックを記入）

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適切しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題	不法投棄が散見されている。さらなる啓発が必要。					

R5年度（年度末評価を記入）

評価	B	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価		評価理由：				
評価	B					

R5年度（年度末改善方針記入）

Action(改善)	R5実施内容の改善及び見直しの上、R6の方針・計画
不法投棄のさらなる啓発とパトロールの強化が必要と考える。	

## 第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	畜産業費	所属	山村再生課	SDG s		
事業(細目)名	畜産業費	事業番号	1145			
総合計画	基本理念	I 森の恵みを活かしたまちづくり				
	視点	仕事	事業番号	連番	I-1	

R5年度(4月記入)

Goal(目標)	畜産農家の経営安定を図り、畜産事業の進行を図る。
Plan(事業概要・計画)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第178回智頭町畜産共進会の開催</li> <li>・畜産農家に対し繁殖和牛雌牛の増頭を支援</li> <li>・東部地区等畜産共進会の出品に係る経費を支援(出品牛輸送費の助成)</li> </ul>

R5年度(3月末に実績を記入)

Do(実行)		R5実績額	254,860円			
活動実績を示す指標		単位	R4	R5(計画)	R5(実績)	対前年比(%)
①	町畜産共進会の開催	回	1	1	1	100%
②	繁殖和牛雌牛の増頭	頭	1	2	1	100%
③	東部地区等畜産共進会出品支援	頭	6	10	0	0%
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東部地区等畜産共進会の出品について、4頭の出品牛輸送費を支援予定であったが、対象者から申請が無かったため実績無し。</li> <li>・町内畜産農家に対し、1頭分の繁殖和牛雌牛の増頭に係る支援を行った。</li> </ul>					

R5年度(3月末に記入)

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適切しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象(者・モノ)、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方(手段、内容、負担)は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題	畜産共進会の開催や町内畜産農家に対し繁殖和牛雌牛の増頭に係る支援を行った。智頭町和牛改良部会の高齢化のため、飼養頭数の減少が見られること、若手の畜産農家の参入不足が課題。					

R5年度(3月末に記入)

評価	C	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価						
評価	C	評価理由: 若手の畜産農家の参入不足が課題				

R5年度(3月末に記入)

Action(改善)	
R5実施内容の改善及び見直しの上、R6の方針・計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・智頭町和牛改良部会の高齢化や新型コロナウイルスによる牛の価格の低下のため、飼養頭数の減少が見られる。若手生産者の確保や個々の生産者の現状把握、作業の効率化等、改善する必要がある。</li> </ul>

## 第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	森林経営管理制度の推進	所属	山村再生課	SDG s	
事業（細目）名	森林経営管理推進事業	事業番号	2082		
総合計画	基本理念	I 森の恵みを活かしたまちづくり			
	視点	環境整備	事業番号	連番	1-2

R5年度（4月記入）

<b>Goal(目標)</b>	森林経営管理法に基づく、新たな森林管理システムの実施
<b>Plan(事業概要・計画)</b>	森林経営管理法に基づく、新たな森林管理システムの実施

R5年度（3月末に実績を記入）

<b>Do(実行)</b>	R5実績額	693,000円				
活動実績を示す指標		単位	R4	R5(計画)	R5(実績)	対前年比(%)
①	意向調査対象森林面積	ha	28.52	22.19	21.38	75%
②						
③						
<b>実施内容</b>	森林経営管理法に基づく、意向調査と経営管理権集積計画案作成を実施した。					

R5年度（3月末に記入）

<b>Check(確認)</b>						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適切しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
<b>成果・課題</b>	計画どおり新たな森林管理システムが実施できている。 課題として、令和6年度以降は森林所有者から管理を委託したい旨の申し出が出てきているため、地籍調査の完了具合を考えつつ、実施していく必要がある。					

R5年度（3月末に記入）

<b>評価</b>	A	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価	A	評価理由：効率的に新たな森林管理システム実施ができている。				

R5年度（3月末に記入）

<b>Action(改善)</b>	R5実施内容の改善及び見直しの上、R6の方針・計画
令和元年度に策定した実施計画に対し、地籍調査結果の反映が追いついていないため、今後は県が示した要整備森林（放置すると下流の集落等に影響する箇所）を含めた施業必要箇所の意向調査も検討していく。	



## 第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	町有林管理	所属	山村再生課	SDGs		
事業（細目）名	町有林造林事業	事業番号	1156			
総合計画	基本理念	I 森の恵みを活かしたまちづくり				
	視点	環境整備	事業番号	連番	I-3	

R5年度（4月記入）

Goal(目標)	町有林の適切な管理
Plan(事業概要・計画)	町有林の適切な管理 SGEC森林管理認証の継続

R5年度（3月末に実績を記入）

Do(実行)		R5実績額	462,000円			
活動実績を示す指標		単位	R4	R5(計画)	R5(実績)	対前年比(%)
①	森林管理認証審査回数	回	1	1	1	100%
②						
③						
実施内容	町有林の適切な管理 SGEC森林管理認証の継続					

R5年度（3月末に記入）

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適切しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題	令和5年度に第4期目となる森林管理認証更新審査を受けたところ。 持続可能な山づくりを目的とする上で、森林管理認証は林業経営の模範であることから、引続き町有林において認証を受けるものとする。					

R5年度（3月末に記入）

評価	B	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価						
評価	B	評価理由：森林管理認証森林として適切に町有林を管理している。				

R5年度（3月末に記入）

Action(改善)	
R5実施内容の改善及び見直しの上、R6の方針・計画	森林管理認証について、町内の林業事業体、新規参加者に普及啓発を行っていく。

## 第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	外来魚の駆除	所属	山村再生課	SDG s	
事業(細目)名	外来魚駆除事業	事業番号	2015		
総合計画	基本理念	I 森の恵みを活かしたまちづくり			
	視点	環境整備	事業番号	連番	I-4

R5年度(4月記入)

Goal(目標)	外来魚の駆除活動を支援し、生物環境の保全を行う。
Plan(事業概要・計画)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・千代川漁業協同組合による外来魚駆除実施の支援を行う。</li> <li>・教育機関(智頭農林高等学校、環境大学等)と連携した環境学習を行う。</li> </ul>

R5年度(3月末に実績を記入)

Do(実行)		R5実績額	372,850円			
活動実績を示す指標		単位	R4	R5(計画)	R5(実績)	対前年比(%)
①	外来魚の駆除	匹	268	200	495	185%
②						#DIV/0!
③						#DIV/0!
実施内容	10月から芦津地内で外来魚駆除活動を計6回実施し、合計495匹の駆除に繋がった。この駆除には、智頭農林高等学校の生徒も参加した。また、「ブラウントラウトダービー」が実施され、本イベントで174匹の駆除ができた。					

R5年度(3月末に記入)

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適切しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象(者・モノ)、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方(手段、内容、負担)は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題	駆除事業で、321匹、イベントで174匹、合計495匹の駆除を行った。ブラウントラウトの主な生息域が、溪流エリアではなく、人里離れた芦津国有林周辺となっており、今後も引き続き、芦津国有林周辺を中心に駆除を行う必要がある。また、イベントでの釣果も前年以上の成果があった。次年度開催に当たり、更なる成果を目指し、広告先の選定など検討する必要がある。					

R5年度(3月末に記入)

評価	B	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価						
評価	B	評価理由: イベントでの駆除に、より効果的な広告先等の検討が必要。				

R5年度(3月末に記入)

Action(改善)	
R5実施内容の改善及び見直しの上、R6の方針・計画	令和5年度は例年より多くのブラウントラウトが駆除され、生息数の増加の可能性がある。中には40cmを超える個体も確認された。引き続き駆除を行い、在来種の生息環境の改善を図る必要がある。 また、R4から開催しているイベントでの釣果や人気も期待以上であるため、R6も引き続き開催し、外来魚駆除の加速化を図る。

## 第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	親元就農者への支援	所属	山村再生課	SDG s		
事業（細目）名	農業振興費	事業番号	1136			
総合計画	基本理念	I 森の恵みを活かしたまちづくり				
	視点	仕事	事業番号	連番	I - 5	

R5年度（4月記入）

<b>Goal(目標)</b>	町内での農業担い手の確保、新規就農者の育成、農地の適正利用
<b>Plan(事業概要・計画)</b>	<p>本町の担い手として位置づけられている農業経営体の経営者の親族の当該経営体への就農を促進し、地域農業の継続的な発展を図るとともに、当該親元就農者の地域農業の担い手としての定着を図る。</p>

R5年度（3月末に実績を記入）

<b>Do(実行)</b>		<b>R5実績額</b>	0円			
活動実績を示す指標		単位	R4	R5(計画)	R5(実績)	対前年比(%)
①	親元就農者	名	1	0	0	0%
②						
③						
<b>実施内容</b>		<p>親元就農促進支援事業活用者なし。昨年度で2年にわたって実施した親元就農者への研修支援が終了し、一定の収量・収入の確保につながるなど、水稻や白ネギの栽培技術の習得が進み、支援の成果が見られた。</p>				

R5年度（3月末に記入）

<b>Check(確認)</b>						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適切しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
<b>成果・課題</b>		<p>令和5年度は親元就農促進支援事業活用者なし。昨年度で2年にわたって実施した親元就農者への研修支援が終了し、一定の収量・収入の確保につながるなど、水稻や白ネギの栽培技術の習得が進み、支援の成果が見られた。</p>				

R5年度 3月末に記入）

<b>評価</b>	B	<b>方針</b>	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価						
<b>評価</b>	B	<b>評価理由：</b> 小規模農家を含めた多様な担い手の確保が課題				

R5年度（3月末に記入）

<b>Action(改善)</b>	
R5実施内容の改善及び見直しの上、R6の方針・計画	
<p>小規模農家を含めた多様な担い手の確保が課題であるため、引き続き新たな担い手の確保を目指す。 また、研修修了者に対しても、習得された技術をさらに向上・発展していただくよう、引き続き支援を行う。</p>	

## 第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	地域の特性を活かした農業生産（農産物加工）の支援	所属	山村再生課	SDG s	
事業（細目）名	地域農業振興プラン支援事業	事業番号	1800		
総合計画	基本理念	I 森の恵みを活かしたまちづくり			
	視点	仕事	事業番号	連番	I -6

R5年度（4月記入）

Goal(目標)	集落営農を支援することにより、町内での農業担い手の確保、農地の適正利用を図る
Plan(事業概要・計画)	集落営農の組織化及び機械施設の整備等を支援するとともに、組織の継続性を確保し、将来に向けても集落農地を維持できる体制づくりを進める。

R5年度（3月末に実績を記入）

Do(実行)		R5実績額	0円			
活動実績を示す指標		単位	R4	R5(計画)	R5(実績)	対前年比(%)
①	集落営農体制強化支援事業補助金	件	1	0	0	0%
②						
③						
実施内容	昨年度で2年にわたって実施した集落への支援（東宇塚集落に対し畦畔のグランドカバープランツの導入支援）が終了し、作業の省力化が図られるなど、支援の成果が見られた。					

R5年度（3月末に記入）

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適切しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題	昨年度で2年にわたって実施した集落への支援（東宇塚集落に対し畦畔のグランドカバープランツの導入支援）が終了した。将来に向けて集落農地を維持できる体制づくりが整備されつつある。					

R5年度（3月末に記入）

評価	A	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価						
評価	A	評価理由： グランドカバープランツの導入に関しては、事業費を抑えるため、他品種での取り組みも模索する必要がある				

R5年度（3月末に記入）

Action(改善)	R5実施内容の改善及び見直しの上、R6の方針・計画
昨年度で2年にわたって実施した集落への支援（東宇塚集落）が終了し、将来に向けて集落農地を維持できる体制づくりが整備されつつある。今後も他集落においても集落営農の組織化及び機械施設の整備等を支援するとともに、組織の継続性を確保し、将来に向けても集落農地を維持できる体制づくりを進める。	

## 第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	農業経営の所得向上	所属	山村再生課	SDG s		
事業（細目）名	農業振興費	事業番号	1136			
総合計画	基本理念	I 森の恵みを活かしたまちづくり				
	視点	仕事	事業番号	連番	I-7	

R5年度（4月記入）

Goal(目標)	農業経営の所得向上
Plan(事業概要・計画)	<p>農業者に対し、自然災害による収量減少等の経営努力だけでは避けられない収入減少を広く補填する農業収入保険への加入促進を図るため、保険料の一部を支援する。</p>

R5年度（3月末に実績を記入）

Do(実行)		R5実績額	44,400円			
活動実績を示す指標		単位	R4	R5(計画)	R5(実績)	対前年比(%)
①	農業収入保険加入者	人	20	25	19	125%
②						
③						
実施内容	<p>農業収入保険の新規加入者等計19名の保険料の一部支援を実施した。</p>					

R5年度（3月末に記入）

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適切しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題	<p>農業収入保険制度に係る加入促進事業により、農業者が自身の経営努力では避けられない収入減少に備えるための当該保険の加入希望者が増加傾向となっている。</p>					

R5年度（3月末に記入）

評価	B	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価						
評価	B	評価理由：農家の経営安定に向けた支援は重要課題と考える。				

R5年度（3月末に記入）

Action(改善)	
R5実施内容の改善及び見直しの上、R6の方針・計画	
<p>異常気象や不作のリスク回避の観点から、様々な場面で収入保険の加入促進を図る。</p>	

## 第7次総合計画進行管理検証シート

事業名	認定農業者等への支援	所属	山村再生課	SDG s		
事業（細目）名	農業振興費	事業番号	1136/1800			
総合計画	基本理念	I 森の恵みを活かしたまちづくり				
	視点	仕事	事業番号	連番	I-8	

### R5年度（4月記入）

Goal(目標)	町内での農業担い手の確保、新規就農者の育成、農地の適正利用
Plan(事業概要・計画)	本町の担い手として位置づけられている農業経営体の経営者の親族の当該経営体への就農を促進し、地域農業の継続的な発展を図るとともに、当該親元就農者の地域農業の担い手としての定着を図る。（認定農業者、集落で合意形成された人・農地プランに位置づけられた中心経営体、地域計画で位置づけられた担い手）への農地集積を後押しするため、3年以上の新規集積に対して支援を行う。

### R5年度（3月末に実績を記入）

Do(実行)		R5実績額			208,480円	
活動実績を示す指標		単位	R4	R5(計画)	R5(実績)	対前年比(%)
①	親元就農促進支援事業補助金	名	1	0	0	0%
②	担い手規模拡大促進事業補助金	名	9	6	7	67%
③						
実施内容		①親元就農促進支援事業活用者なし。昨年度で2年にわたって実施した親元就農者への研修支援が終了し、一定の収量・収入の確保につながるなど、水稻や白ネギの栽培技術の習得が進み、支援の成果が見られた。 ②町内の担い手7人へ新規で3年以上の農地、合計261aが集積された。				

### R5年度（3月末に記入）

Check(確認)						
評価項目	評価内容	100%	75%	50%	25%	0%
妥当性	社会情勢から見て、行政で実施すべきか	A	B	C	D	E
	住民ニーズや総合計画に適切しているか	A	B	C	D	E
	事業の対象（者・モノ）、費用等の規模は適正か	A	B	C	D	E
有効性	期待した効果は得られているか	A	B	C	D	E
	事務事業の目標は達成できているか	A	B	C	D	E
	総合計画の目的達成に貢献しているか	A	B	C	D	E
効率性	効率性を考えたとき、実施方法は適切か	A	B	C	D	E
	事務事業の中で、統廃合や縮小できないか	A	B	C	D	E
	事業の進め方（手段、内容、負担）は適正か	A	B	C	D	E
成果・課題		①昨年度で2年にわたって実施した親元就農者への研修支援が終了し、一定の収量・収入の確保につながるなど、水稻や白ネギの栽培技術の習得が進み、支援の成果が見られた。習得された技術をさらに向上・発展していただく支援を継続して実施する必要がある。 ②町内の担い手7人へ新規で3年以上の農地、合計261aが集積された。今後も引き続き、農地が農地として利用できるうちに担い手への集積を促す必要がある。				

### R5年度（3月末に記入）

評価	B	方針	拡大	現状維持	抑制	廃止
担当課長評価						
評価	B	評価理由：今後も担い手を維持・確保し、さらなる集積を図る必要がある。				

### R5年度（3月末に記入）

Action(改善)	
R5実施内容の改善及び見直しの上、R6の方針・計画	
①令和6年度は親元就農者に対する支援の対象者なし。研修修了者に対して習得された技術をさらに向上・発展していただくよう、引き続き支援を行う。 ②町内の担い手7人へ新規で3年以上の農地、合計261aが集積された。 法改正に伴い、令和7年4月から機構法による利用権設定に1本化されるため、令和6年度以降もこれを意識した集積を図っていく。	